

# 第3回次期消防基本計画検討会

日時：平成22年11月12日（金） 13:30～15:30  
場所：神戸市役所3号館2階 消防作戦室

## 議事次第

### 1 開会

### 2 局長あいさつ

### 3 委員のご紹介

### 4 議事

- (1) 第2回次期消防基本計画検討会議事  
要旨（案）について

（資料）

資料 No. 1 「第2回次期消防基本計画検討会議事要旨（案）」

- (2) 長期計画（～2025年）（素案）について

資料 No. 2 【第1部】「神戸消防グランドデザイン2025（素案）」

- (3) 短期計画（～2015年）（骨子案）  
について

資料 No. 3 【第2部】「神戸消防アクションプラン2011-2015（案）」

- (4) 今後の検討スケジュールについて  
（パブリックコメント等）

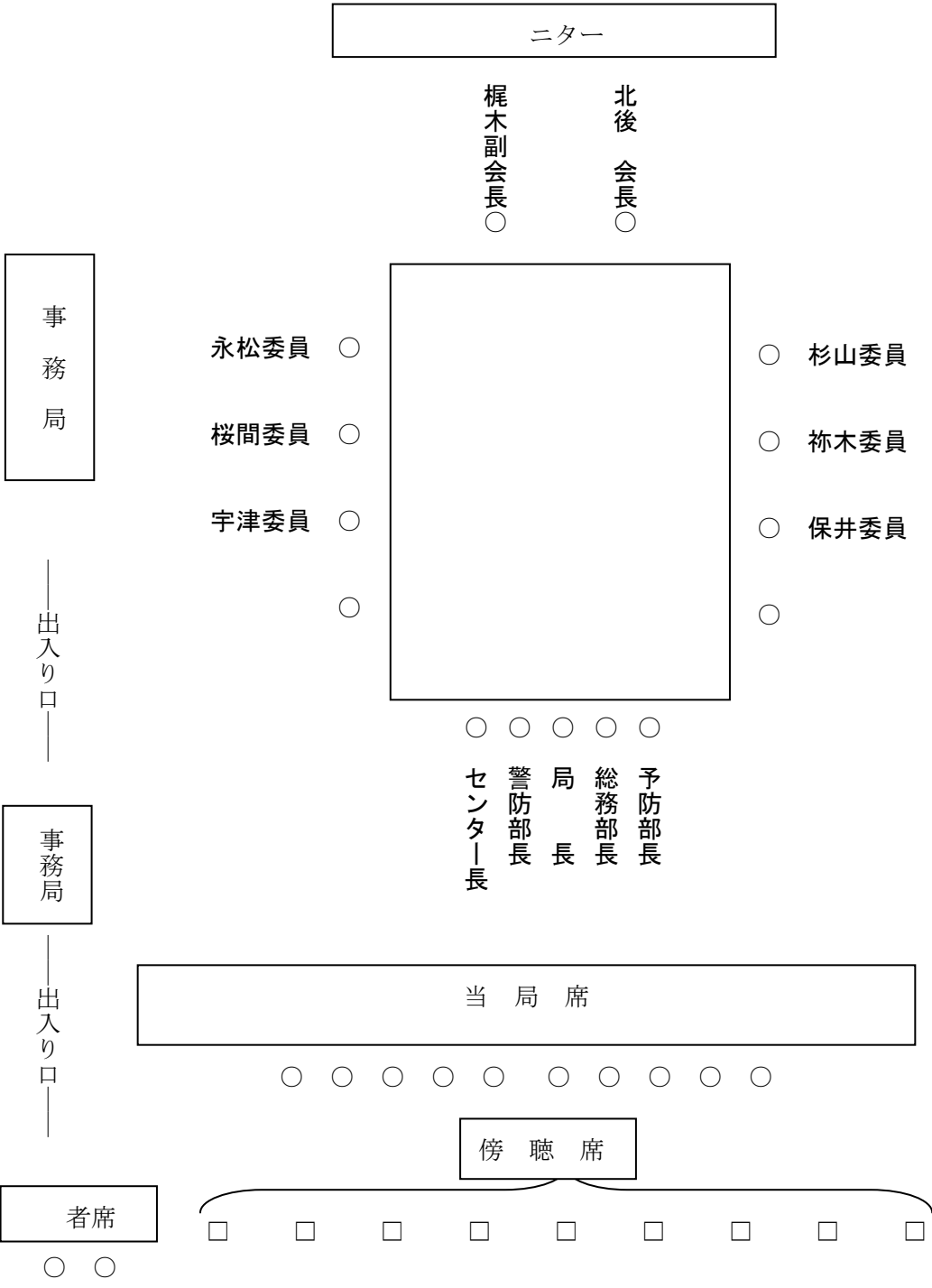
資料 No. 4 「今後の検討スケジュール」

### 5 閉会



# 第3回「次期消防基本計画検討会」座席表

平成22年11月12日(金) 15:00~  
神戸市役所3号館2階 消防作戦室



【次期消防基本計画検討会 委員一覧】

※五十音順・敬称略

氏名	所属等	役職等
宇津 寛	神戸市自治会連絡協議会	会長
(副会長)梶木 典子	神戸女子大学家政学部家政学科	准教授
坂本 津留代	井吹台東防災福祉コミュニティ	会長
桜間 裕章	株式会社 神戸新聞社	論説副委員長
杉山 力子	神戸市婦人団体協議会	副会長
中神 一人	神戸市医師会	副会長
永松 伸吾	関西大学社会安全学部	准教授
柘木 和明	神戸市消防協会	会長
(会長)北後 明彦	神戸大学都市安全研究センター	教授
保井 剛太郎	三ツ星ベルト株式会社神戸本社	理事

10名

## 次期消防基本計画検討会 議事要旨

項目	第2回 次期消防基本計画検討会 議事要旨		
日時	平成22年8月6日(金) 10:00~12:00		
場所	市役所3号館2階 消防局作戦室		
出席者	委員出席者：北後会長、梶木副会長 宇津委員、坂本委員、杉山委員、永松委員、柘木委員、保井委員 消防局出席者：局長、総務部長、予防部長、警防部長、センター長 本部課長級、係長級職員、企画係員		
資料	No	資料名	提出元
	1	「第1回次期消防基本計画検討会議事要旨(案)」	消防局
	2	「次期消防基本計画(骨子)(案)」	消防局
	3	「「2025年神戸のまちの将来像」の実現に向けて(案)」	消防局
	4	「今後の検討スケジュールについて」	消防局

### 【内容】

#### 「神戸らしさ」

- 基本理念における神戸らしさは「きずな」という言葉に現れていると思いますが、事務局の言う神戸らしさというのはどの部分か。「みなと」か「震災」の他に強調できる部分があれば教えて欲しい。  
 ⇒・キーワードとしては「デザイン」。まち自体を防災という視点で「デザイン」していくことが主旨。当市全体の方向性とあわせて「デザイン」という概念が計画を通じて定着するようにしていきたい。  
 ・Made In Kobe というのが、神戸発にホテルのバルコニーなどがあり、去年の東灘区の火災事故を受けても制度改革に取り組んできた。またそれを全国に情報提供を行い、消防制度の改革に寄与してきたことが神戸らしさと言える。
- 都市型の災害を経験した都市として、小さいときから子どもたちにしっかり理解をさせて育てるのが、神戸らしさである。
- 防コミを活かさないと神戸らしくない。191地区という数字より、何をやっていくのが重要。

#### 「デザイン」

- デザインの言葉の定義がよくわからない。  
 ⇒・当市では「デザイン都市」に取り組んでおり、まち自体を防災という視点で「デザイン」していくことが主旨。言葉としては難しいが、有形物をつくるデザインのみならず、考え方としてのデザインである。
- 医療・福祉・消防の連携しないと救急需要の増加への対応はできない。神戸市の言うデザインはそういうことと理解している。

#### 「地域」・「防災福祉コミュニティ」

- 神戸の防コミの設立主旨は、小規模な町内会単位から小学校区単位としたことと、防災と福祉を融合させていくことにあった。そのような視点が見受けられない。  
 ⇒・福祉の内容を文言として書き込んでいきたい。
- 防コミは191地区で、皆やり方が違います。取り組み方について一律に盛り込む必要はない。
- 「自分の命は自分で守る」ことが大前提で、消防は「自分の命を自分で守る」ためのサポートをしていく。今は何でも消防、公に頼るのが一番になっている。

- 自分で出来ない人をどうするかを計画に入れて欲しい。福祉避難訓練は自治会、婦人会や民生委員みんなで行わないとできず、地域が連携した防コミという機能が必要になる。「福祉」を含めた活動してはじめて「神戸らしい」防コミと言える。また消防が地域に入って、防コミが成り立つ。
- 暮らしの中で向こう3軒両隣くらいはキャッチしておくような、神戸であって欲しい。

### 「理念」「社会潮流」

- 「理念」は概ね良いような気がするが、少し方法論に偏り過ぎている。人間の尊厳を大切にするなど、理念らしい理念でもいいように感じる。
- 皆が「きずな」が失われつつある危機感を持っているのではないか。震災の経験・教訓を維持させていくのは大変なチャレンジだという危機感をもう少し出しても良いのでは。
- 「社会潮流」には、今後の予測と対応のみでなく、「こうあるべきである」という目標も入れてはどうか。目標に向かっていくための理念という流れが良いのではないか。
- 「きずな」が失われているのかと思う。単に高齢化社会だからではすまない消防の仕事も増加しており、福祉の役割が大きくなってきている。
- 前回ドアを破って入っていく必要がある救助事案が増えているとありました。その辺りも社会潮流としていくべきかもしれない。
- 共働き化が進んでいて昼間時間帯に主婦層が減っている。昼間地域にいるのがどういう人かということも社会潮流として捉えておくことが重要。

### 「将来像」「+チルドレン」

- 「将来を補完する」と書かれている「+」2項目や基本理念など、概ねこれで良いのでは。
- 15年後には中学生が親になり、大人はますます年齢を重ねる。次世代の子どもたちをしっかりと育て、地域を担ってもらえるようなメニューを盛り込んでいくと安心である。
- 防災「+チルドレン」はいい事だが、子どもを巻き込むことに頑張るより、「子供は守られるべき存在」という面を忘れてはいけない。
- 子どもへの活動は連携が大事で地域も大きく関わらないといけない。そのおかげで地域も仲良くなる。子どもを守るために地域をつなげていく側面が必要。
- 子どもにもきちんと防災知識を教えるようにすれば良い。